

■西園寺公望 公卿出身の開明的政治家。転変の後、政界入り、年とともに重要な役割を担うも、軍国化止められず。

さいおんじきんもち  
北斎没・・・1849＝ 京都で右大臣徳大寺公純の次男に生まれる。

万次郎帰国・1852＝ 3歳：西園寺家を継ぐ。ともに摂家につぐ清華の家柄である。

ペリー来航・1853＝ 4歳： 学習院で詩文を学び、

松下村塾・・・1856＝ 7歳：近衛忠熙に入門して書を学ぶ。

蕃書調所・・・1857＝ 8歳：元服して昇殿を許され、

五ヶ国条約・1858＝ 9歳：

桜田門外変・1860＝11歳：

遣欧使節・・・1861＝12歳：右近衛中将となり、宮中に出仕。近習となり、睦仁親王(明治天皇)に仕える。古学の塾{古義堂}に入門。

少年時代から進取の気性や無礼なことには怒りを爆発させる気性で知られ、

大政奉還・・・1867＝18歳：王政復古にあたり、岩倉具視の推挙で、参与に任じられ、

明治維新・・・1868＝19歳：戊辰戦争では山陰道鎮撫総督、会津口征討大参謀となり、越後府知事となったが、許可なく辞職して京都に帰り、名も平民風に望一郎と改め、邸内に家塾立命館を開く。

初の日刊新聞1870＝21歳：政府の許可で官費を受けて、フランス留学に出発、

廃藩置県・・・1871＝22歳：途中、アメリカのワシントンでグラント大統領に面会するなどして、パリに到着。おりしも勃発したパリ・コミュンに遭遇し、民衆の横暴に批判的になる。

明治6年政変 1873＝24歳：政府が留学生帰国に転換すると、以後、自費留学生としてパリに留まり、鼻血を出すほど勉学に励み、

初の民間工場1875＝26歳：ようやくパリ大学法学部入学を果たし、法学者アコラスに学んで自由思想の洗礼をうけ、クレマンソーにも強く影響される。中江兆民らと親交しながら、パリの自由な生活を楽しむ。

三つの反乱・1876＝27歳：兄徳大寺実則から、勉学成果上がらぬため帰国するよう促されるも留まり、

大久保暗殺・1878＝29歳：パリ大学を修了。実家の資金が不足すると、なお天皇家下賜金を得て留まるが、

・・・・・・1880＝31歳：ついに帰国。明治法律学校(明治大学の前身)の創設に参加。

明治14年政変1881＝32歳：この年、新橋の料亭のお菊を身請けして妻同様とし、以後、生涯結婚せず、女中頭等を妻扱い。中江兆民らと自由民権を唱える{東洋自由新聞}を発刊して社長兼主筆となり、政府の退社画策も拒絶したが、天皇の内勅でやむなく辞職。明治14年の政変に際し参事院がおかれると、議長伊藤博文に同議官補に登用され、伊藤の憲法取調べに随行して渡欧。

新体詩抄・・・1882＝33歳：岩倉具視没・1883＝34歳：伊藤の信頼を得て帰国。

秩父事件・・・1884＝35歳：華族令で侯爵となり、

内閣発足・・・1885＝36歳：オーストリア公使に任命されて赴任。陸奥宗光と出会う。

帝国大学始・1886＝37歳：帰国。

国民之友始・1887＝38歳：ドイツ公使として渡欧、

帝国憲法発布1889＝40歳：

足尾鉾毒始・1891＝42歳：帰国。賞勲局総裁の閑職に追いやられ、

大本教・・・1892＝43歳：伊藤内閣となっても、陸奥が外相となり、

郡司千島探検1893＝44歳：貴族院副議長の閑職が続くも、伊藤に協力して近代的国家体制を整備する役割に生きがいを見出し、

日清戦争始・1894＝45歳：\*第2次伊藤内閣の文相になり、ようやく政界入り、

白馬会・・・1896＝47歳：陸奥の病氣退任で、念願の外相に就任したが、まもなく倒閣すると、身軽さ利用し訪仏。陸奥・竹越与三郎らと、雑誌{世界之日本}を創刊。

八幡製鉄始・1897＝48歳：現地で重症の盲腸炎になり、帰国後も再発が続き、以後生涯、様々な病に悩まされる。この年、陸奥が死去して、伊藤の最有力後継者となる。

子規句歌革新1898＝49歳：第3次伊藤内閣の文相となると、世界に対応すべく、第二の教育勅語の発布を考える。

Bushidou・・・1899＝50歳：フランス以来の大病に罹り、一時面会謝絶。

ヒアノ国産化・1900＝51歳：伊藤の立憲政友会創立に参画。その直後に枢密院議長となり、一時は臨時首相も務める。

日比谷公園・1903＝54歳：伊藤が山県有朋らの策謀で枢密院議長にまつり上げられると、第2次政友会総裁となり、松田正久と原敬とを総務として党勢立直しに当たらせる。

日露戦争始・1904＝55歳：日露戦争に際しても文明国の立場を説き、盲目的な排外心を戒めた。

日露戦争終・1905＝56歳：

満鉄発足・・・1906＝57歳：\*日露戦争後、桂太郎から政権を受け継ぎ、以後、政権を交代して担当して桂園時代と呼ばれる。

韓国反日暴動1907＝58歳：森鴎外・田山花袋・幸田露伴らの文士を東京駿河台の本邸に招いて雅会{雨声会}を開くも、体調悪化。

アヲキ創刊・1908＝59歳：総選挙で政友会は絶対多数を占めたが、直後に社会主義者の取締りが手ぬるいとの山県の上奏で辞職。

また、{雨声会}を続けて開催するなどして、西園寺が政権に恬淡であると原の不満も買うようになり、

大逆事件判決1911＝62歳：第2次内閣を辞すも、

明治天皇没・1912＝63歳：陸奥の倒閣策謀で辞任し、その際元老に加えられる。ついで第3次桂内閣ができると議憲運動が広がり、政友会が内閣不信任案を出すで大正天皇は西園寺を呼んで政争回避を命じたが、西園寺は総裁辞任を上奏し、政友会の方針を変えず、桂は内閣を投げ出す。

大正政変・・・1913＝64歳：後継内閣は山本権兵衛の準政友会内閣となった。西園寺は慰留を拒み、原が第3次政友会総裁となる。

本格政党内閣1918＝69歳：米騒動後の政変では原への大命降下に尽力し、最初の政党内閣を作らせた。

べルリン条約・1919＝70歳：パリ講和会議の首席全権となり、お花を同行して話題に、

大暴落・・・1920＝71歳：その功で公爵となった。

原敬首相暗殺1921＝72歳：原暗殺の報にも動ぜず、

水平社結成・1922＝73歳：\*山県が死去すると、元老としての自覚を一層高め、国際連盟を重視し英米と協調して日本が世界の文明国として発展することを望み、皇太子裕仁の外遊にも尽力。後継首相推薦の重責を双肩に担い、興津の別邸坐漁荘には政客たちが絶えず、“興津詣で”と呼ばれた。

元老としては当初総選挙を公平に行わせようと中間内閣を推したが、議憲三派運動以後は政党内閣を推す慣行となり、“憲政の常道”と呼ばれた。さらに立憲政治確立のため宮中や枢密院の人選にも配慮したが、政友会は政権獲得のため特権勢力とも結託して西園寺を嘆かせた。

大正天皇が崩御。以後、天皇機関説の立場から、若い昭和天皇の意気込みを和らげるのに苦労。

円本時代始・1926＝77歳：面会謝絶の重病。

共産党事件・1928＝79歳：

海軍軍縮条約1930＝81歳：

満州事変・・・1931＝82歳：満州事変がおこり軍部ファシズムの嵐が広がると、国民の不満を皇室に向けないように意を用い、

五一五事件・1932＝83歳：五・一五事件後には重臣と協議して中間内閣を作らせ、事態の鎮静を期待したが、

二二六事件・1936＝87歳：二・二六事件で軍部が実権ににぎり宇垣一成の組閣も阻止されると、元老辞退の意を強め、後継首相の推薦も逐次内大臣中心の方式に改められる。

日中戦争始・1937＝88歳：第1次近衛文麿内閣のもとで日中戦争がおこりファシズム体制が進むと、批判を強め、

大政翼賛会・1940＝91歳：\*第2次近衛内閣の成立には同意を拒み、日独伊三国同盟が結ばれるなかで没した。国葬となった。

伊藤之雄「元老西園寺公望」、「日本史を変えた人物200人」、「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、